

大規模災害廃棄物対策九州ブロック協議会「ワークショップ」 議事要旨

1. 日時

令和 7 年 10 月 28 日（火） 14:00～16:00

2. 開催場所

熊本市国際交流会館 4階 第3会議室
(熊本県熊本市中央区花畑町 4-18)

3. 出席者

福岡県(2名)、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、北九州市、福岡市、久留米市、長崎市、熊本市、大分市、鹿児島市、那覇市、平山准教授、九州地方環境事務所及び事務局（(一財)日本環境衛生センター）

※ご欠席：長崎県、熊本県、佐世保市、宮崎市、島岡理事長

4. 開催概要

【次第】

- | | | |
|---|----------------------------|----------|
| 1 | 開 会 | |
| 2 | 環境省挨拶 | |
| 3 | 出席者紹介、配布資料確認 | …資料 1 |
| 4 | ガイダンス | …資料 2 |
| 5 | ワークショップ① 情報伝達訓練結果の振り返り | …資料 3 |
| 6 | ワークショップ② 簡易マッチング作業、様式改善の検討 | …資料 4, 5 |
| 7 | 報告：令和 6 年能登半島地震の対応ヒアリング結果 | …資料 6 |
| 8 | 意見交換 | |
| 9 | 閉会 | |

【配布資料】

- 資料 1 出席者一覧（班分け記載）
資料 2 ワークショップの進行方法
資料 3 情報伝達訓練アンケート結果
資料 4 簡易マッチング資料一式
(資料 4-1：集計表 B、資料 4-2：集計表 C)
資料 5 ブロック内連携マニュアル様式集
資料 6 令和 6 年能登半島地震での災害対応に関する中部地方環境事務所へのヒアリング結果

【ワークショップ②での参加者の役割分担】

ワークショップ②では、参加者を以下のとおり4班に分け、各班が幹事支援県として簡易マッチングを行い、様式の見直し事項について検討した。

役割	担当
幹事支援県	1班：福岡県、北九州市、熊本市、九州地方環境事務所 2班：福岡県、佐賀県、宮崎県、久留米市、大分市 3班：大分県、鹿児島県、長崎市、鹿児島市 4班：沖縄県、福岡市、那覇市、九州地方環境事務所
有識者、オブザーバ	名古屋大学 平山准教授

5. ワークショップにおける各班の発表内容、ご意見等

1) ワークショップ①：情報伝達訓練結果の振り返り

発言者	内容
【1班】 発表者：北九州市	<ul style="list-style-type: none"> 様式を使用する市町村と回答を集計する県では、意見が異なると思う。 回答する立場(市)としては、各課への照会が行いやすいため、エクセル様式の方が使用しやすいと感じた。また、エクセルの方が補足のコメントなどを追記しやすい。 集計する立場(県)としては、フォーム形式の方が集計しやすいと感じた。 これまでの災害対応経験がないため、一部の記載項目について、どのように入力(計算)したらよいか分からなかった。 例：○トンのがれきであれば、処理に△トンの車両が□台程度必要
【2班】 発表者：佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> 様式については特に意見なし。 実際に災害が起きた際に、これらの様式をいかに効率的に使用できるかが課題と思った。
【3班】 発表者：大分県	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と同訓練と比較すると、エクセル様式の項目が簡略化、プルダウンが追加されており、使用しやすかった。 九州ブロック災害廃棄物対策行動計画(R5.3月改定)のp14に記載されている情報共有フォーマットについて、本訓練で使用した様式との使い分けが分からなかった。
【4班】 発表者：沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> エクセル様式の方が使用しやすかった。フォーム形式の場合、何を送付したかが後で分からなくなると感じた。 実際に災害が起きた際は、情報収集を何度も行うため、様式への記載漏れや更新忘れが生じる可能性があると感じた。

2) ワークショップ②：簡易マッチング作業、様式改善の検討

発言者	内容
<p>【1班】 発表者：熊本市</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (集計表 C) 受援者と支援者のマッチングは、双方の位置関係が分からないため難しかった。マッピング情報があると分かりやすいと感じた。 • (集計表 C) 収集運搬の支援希望欄について、基本的には車両とドライバーはセットでの支援になると思う。そのため、「中間処理・ドライバ・オペレータの必要有無」欄は「中間処理の必要有無」欄とした方がよいと感じた。 • (集計表 B) 中間処理の支援可能量は、施設を維持管理する立場としては、1日あたりの受入可能量(〇t/日)より、現状のキャパシティ(受入可能な総量)を回答してもらう方式がよいと感じた。
<p>【2班】 発表者：佐賀県</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (集計表 C) 支援希望内容のうち搬出場所(〇〇仮置場など)については、おおまかな住所を特定できる情報も必要と感じた。 • 受援者と支援者のマッチングは、必ずしも1対1にはならないと感じた。 • 集計表 B と C で項目の順番が整合していない部分があるため、統一した方がよいと感じた(例：人的支援の枠について、受援側は左から「支援を希望する業務内容」、「必要人数」、「支援を希望する期間」の順番だが、支援側は「所属」「派遣可能人数」、「派遣可能期間」、「支援可能な業務内容」の順番)。
<p>【3班】 発表者：長崎市</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (集計表 C) 必要な情報は網羅されていると感じた。 • 受援者と支援者のマッチングにあたっては、幹事支援県の責任(負担)が重たいと思った。 • 実際に災害が起きた際は、対応が残っている支援をいかに追跡する(漏れがないようにする)かが難しいと感じた。 • (集計表 C) 要支援内容の優先順位が分かるよう、優先すべき項目を上の方に書いた方がよいと感じた。
<p>【4班】 発表者：福岡市</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (集計表 C) 車両の積載量については、バキューム車であればKLなど、単位を統一した方がよいと感じた。 • (集計表 C) 様式の記入例について、車両の種類がパッカー車・平ボディ車、車両の必要台数が5台程度となっている行があった。車両ごとの必要台数が分からないため、このような場合は行を分けて記載する必要があると感じた。 • (集計表 C) マッチング状況の欄について、マッチング結果の連絡欄とは別途、支援(収集運搬や処理)が完了した際の記入欄もあった方がよいと感じた。 • (集計表 C) 集計を行う県の立場としては、収集運搬や中間処理など、支援項目ごとにシートが分かれている方が整理しやすいと感じた。 • 受援者と支援者のマッチングにあたっては、幹事支援県のみで情報のとりまとめを行うのは難しいと感じた。幹事支援県・支援県間での相互支援体制づくりが重要と感じた。

3) その他

発言者	内容
【有識者】 平山准教授	<ul style="list-style-type: none">• 近年の国(国土交通省や総務省など)の動向も踏まえ、災害対応にあたっては、デジタル化の推進や様式などの共通化を意識して欲しい。 例として、市区町村コードを活用すれば、位置情報の把握(マッピング)が容易となる。• 本日の訓練のみで終わりではなく、今回使用した様式を普段の業務において、どのように活用・実践できるかを考えて欲しい。• 自治体内で所有しているパッカー車の台数などは、平時のうちに把握するとともに、関連部署への共有も行って欲しい。

以 上